

表彰

〔2025年度学会賞受賞者〕

- 川崎 英也 君（関西大学化学生命工学部・教授）
 研究業績 金属ナノ粒子を用いた質量分析法および金属ナノクラスターを用いた蛍光分析法の開発
- 長谷川 浩 君（金沢大学理工研究域・教授）
 研究業績 微量元素の化学種別分析法の開発と環境研究への応用
- 前田 耕治 君（京都工芸繊維大学・教授）
 研究業績 液液界面電気化学に立脚したバイオミメティック膜反応の創成と解析

〔2025年度技術功績賞〕

- 辻田 明 君（福岡県警察本部科学捜査研究所・専門研究員）
 研究業績 血液中の微量無機ガス等の定量分析に関する研究

〔2025年度奨励賞受賞者〕

- 石井 千晴 君（九州大学大学院薬学研究院・助教）
 研究業績 生体・食品に存在するキラルアミノ酸の高選択的分析法開発
- 金尾 英佑 君（京都大学大学院薬学研究科・助教）
 研究業績 ナノ・マイクロ材料による新規分離場の開発とその応用
- 眞塩麻彩実 君（金沢大学理工研究域・准教授）
 研究業績 海洋における白金族元素分析法の開発と分布・挙動に関する研究
- 横山 悠子 君（京都大学大学院工学研究科・助教）
 研究業績 電流－電位曲線の新規解析法の開発による電極反応の新たな解釈

〔2025年度先端分析技術賞受賞者〕

JAIMA 機器開発賞

- 松田 和大 君（株東レリサーチセンター・主任研究員）
 研究業績 二次イオン質量分析および機械学習を用いた生体試料の組成イメージング
- 森川 悟 君（株日立ハイテクアナリシス・部長代理）
- 森川 剛 君（岩手医科大学・助教）
- 柳田 顕郎 君（東京薬科大学薬学部・教授）
- 松下美由紀 君（株日立ハイテクアナリシス・部長代理）
- 蛭田 多美 君（株日立ハイテクアナリシス・主任技師）
- 富岡 勝 君（株日立ハイテクアナリシス）
- 福田 真人 君（株日立ハイテクアナリシス・シニア社員）
 研究業績 多品目の薬物血中濃度を迅速簡便に定量するための医療従事者用 HPLC システムの製品開発と実用化

〔2025年度女性 Analyst 賞受賞者〕

- 高野 恵里 君（株 TearExo・取締役 CTO）
 研究業績 生体・人工高分子を分子認識素子に用いるピペットチップセンシングプラットフォームの開発
- 高橋 幸奈 君（九州大学カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所・准教授）
 研究業績 高性能センシングデバイスを指向したプラズモニクナノ粒子—光機能性材料複合系の開発

〔2024年「分析化学」論文賞受賞者〕

- 石井 千晴 君 (九州大学大学院薬学研究院)
 古賀 夢美 君 (九州大学大学院薬学研究院)
 藤井 暁 君 (坂元醸造(株))
 秋田 健行 君 (九州大学大学院薬学研究院)
 三田 真史 君 (KAGAMI(株))
 長野 正信 君 (坂元醸造(株))
 浜瀬 健司 君 (九州大学大学院薬学研究院)
 受賞論文 メートル長高分離能光学分割カラムを用いる食酢中アラニン及びセリン鏡像異性体の分析
 柳澤 華代 君 (日本原子力研究開発機構原子力基礎工学研究センター, 福島大学共生システム理工学類)
 横田 裕海 君 (福島大学共生システム理工学類)
 藤本 勝成 君 (福島大学共生システム理工学類)
 高貝 慶隆 君 (福島大学共生システム理工学類, 福島大学環境放射能研究所)
 受賞論文 罰則項付き非対称最小二乗法によるオンライン同位体希釈—レーザーアブレーション—誘導結合プラズマ質量分析のフローピーク検出

〔2025年度有功賞受賞者〕(敬称略)

- | | | | |
|-------|-----------------------|-------|-----------------|
| 嶋田 真次 | (株)島津テクノロジー | 阿川 智 | 三菱マテリアル(株) |
| 高橋 雅夫 | 独造幣局 | 大渡真由美 | (株)東レリサーチセンター |
| 向井 博幸 | 日産化学(株) | 高野 香織 | (株)東レリサーチセンター |
| 秋山 秀之 | (株)日立ハイテクアナリシス | 藤重 育夫 | (株)DNP 科学分析センター |
| 小林みどり | 日鉄テクノロジー(株) | 市来智恵子 | JFE スチール(株) |
| 中村 和義 | 日鉄テクノロジー(株) | 秋元 千春 | DOWA テクノリサーチ(株) |
| 深井 秋博 | (株)島津製作所 | 望月 高文 | DOWA テクノリサーチ(株) |
| 矢幡 雅人 | (株)島津製作所 | 木原 裕子 | JFE テクノリサーチ(株) |
| 野村 文子 | (株)島津製作所 | 森内 栄次 | JFE テクノリサーチ(株) |
| 浅見 尚義 | (株)島津製作所 | 小野 直孝 | JFE テクノリサーチ(株) |
| 高田 勝弘 | (株)島津製作所 | 村上 昌之 | JFE テクノリサーチ(株) |
| 大田 雅彦 | 東ソー(株) | 広地美恵子 | (株)三井化学分析センター |
| 名雪 三依 | 旭化成(株) | 松井 久美 | (株)三井化学分析センター |
| 亀沢 和子 | 旭化成(株) | 畑中 聖子 | (株)三井化学分析センター |
| 大杉 紳也 | (株)東ソー分析センター | 柴田 靖子 | (株)三井化学分析センター |
| 大貫 隆史 | 味の素(株) | 榎本ゆり子 | (株)三井化学分析センター |
| 石川 和也 | 住友金属鉱山(株) | 澤野 勝丈 | (株)トクヤマ |
| 山内 利昭 | 住友金属鉱山(株) | 宮坂 佳彦 | (株)レゾナック |
| 上内 義雄 | (株)コベルコ科研 | 笹谷 嘉一 | (株)レゾナック |
| 田島みよ子 | MHI ソリューションテクノロジーズ(株) | 山内 康之 | (株)レゾナック |
| 金子 弘 | (株)住化分析センター | 白川 和美 | (株)レゾナック |
| 桐谷 健一 | (株)住化分析センター | 舟木 夏彦 | (株)大同分析リサーチ |
| 跡部 正和 | 三井金属鉱業(株) | 早川 昌子 | 富士フイルム和光純薬(株) |

お知らせ

(支部役員名簿に一部修正がありましたので、再掲します)

2025 年度日本分析化学会役員

会長 (代表理事)	山本 博之						
副会長	平山 直紀	保倉 明子	手嶋 紀雄	津越 敬寿	吉田 裕美	小澤 岳昌	
庶務担当理事	坂入 正敏	珠玖 仁	敷野 修	巽 広輔	森内 隆代	高柳 俊夫	
	井上 高教	夏原 正仁	西本 右子	高橋あかね	東海林 敦		
会計担当理事	松浦 義和	島田亜佐子					
編集担当理事	山口 央	竹内 政樹	加地 範匡				
常務理事	福井 俊司						
監事	長谷川 健	安田 純子					

2025 年度日本分析化学会支部役員

【北海道支部】	(〒060-8628 北海道札幌市北区北 13 条西 8 丁目 北海道大学大学院工学研究院内)
支部長	坂入 正敏
副支部長	(木村)須田廣美 南 尚嗣
参 与	伊藤 慎二 伊藤八十男 片山 則昭 菅 正彦 齋藤 健 齋藤 徹 神 和夫
高橋 一樹	高橋 英明 田中 俊逸 長谷部 清 森田みゆき 横沢 龍朗
監 事	渡慶次 学 蠣崎 悌司
庶務幹事	佐藤 久 谷 博文
会計幹事	真栄城正寿 山田 幸司
幹 事	青柳 直樹 池田 敦子 石田 晃彦 今枝 佳祐 上野 貢生 宇都 正幸 大木 淳之
大津 直史	岡 征子 奥田 弥生 川口 俊一 工藤 英博 小寺 史浩 堺井 亮介 佐々木隆浩
真田 哲也	高瀬 舞 高橋 徹 田原るり子 千葉 真弘 徳光 藍 富田 恵一 中田 耕
中谷 暢丈	中屋 佑紀 西村 一彦 沼田ゆかり 松井 宏之 三浦 篤志 三原 義広 村井 毅
諸角 達也	吉村 昭毅 龍崎 奏 若杉 郷臣
【東北支部】	(〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-11-604 東北大学大学院工学研究科内)
支部長	珠玖 仁
副支部長	高貝 慶隆 沼田 靖
参 与	秋葉 健一 大関 邦夫 大類 洋 尾形 健明 荻野 博 長 哲郎 後藤 順一
齋藤 紘一	佐藤 允美 糠塚いそし 星野 仁 山崎 慎一 四ツ柳隆夫
監 事	大江 知行 藤村 務
庶務幹事	伊野 浩介
会計幹事	長峯 邦明
幹 事	赤坂 和昭 壹岐 伸彦 石川大太郎 伊藤 徹二 井上 賢一 岩田 吉弘 遠藤 昌敏
大橋 弘範	小川 信明 押手 茂克 尾高 雅文 加藤 健 上條 利夫 唐島田龍之介 菊池美保子
北川 文彦	熊谷 将吾 斎藤昇太郎 佐藤 勝彦 佐藤 健二 佐藤 雄介 猿渡 英之 澤村 瞭太
志村 清仁	杉山 将司 田副 博文 多田 美香 寺前 紀夫 照井 教文 仲川 清隆 西澤 精一
野原 幸男	橋本 隆光 幡川 祐資 比嘉 勝孝 平野 愛弓 平山 和雄 福山 真央 末永 智一
松枝 誠	三浦 拓也 松村 洋寿 眞野 成康 盛田 伸一 山田 理恵 李 宣和 和久井喜人
渡辺 壱	渡辺 健一 渡辺 忠一
【関東支部】	(〒141-0031 東京都品川区西五反田 1-26-2 五反田サンハイツ 304 号)
支部長	菅原 一晴
次期支部長	平山 直紀
副支部長	上野 祐子 梅林 泰宏 敷野 修 島田亜佐子
参 与	梅澤 喜夫 大橋弘三郎 岡田 哲男 小熊 幸一 金澤 秀子 楠 文代 合志 陽一
澤田 清	四宮 一総 渋谷 雅美 杉谷 嘉則 鈴木 康志 高田 芳矩 高村喜代子 田中 龍彦
津越 敬寿	角田 欣一 中込 和哉 中村 洋 二瓶 好正 丹羽 修 早下 隆士 平井 昭司

お知らせ

藤浪 眞紀	保母 敏行	本田 俊哉	前田 瑞夫	宮村 一夫	望月 直樹	安田 純子	矢野 良子
山崎 素直	山根 兵	山本 博之					
監 事	菅沼 こと	津越 敬寿					
常任幹事	青木 寛	板橋 大輔	稲川 有徳	植田 郁生	梅村 知也	岡村 浩之	勝又 啓一
坂元 秀之	東海林 敦	高橋由紀子	高橋 豊	豊田 太郎	中村 圭介	西垣 敦子	西山 徹男
沼子 千弥	林 英男	古庄 義明	南 豪	山口 央	由井 宏治		
支部幹事	桑原 直子	齋藤凜太郎	鈴木 悠希	田中 佑樹	半田友衣子	森田耕太郎	吉川ひとみ

【中部支部】 (〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須 1-35-18 一光大須ビル 7F (公財)中部科学技術センター内)

支 部 長	巽 広輔							
次期支部長	高田 主岳							
副支部長	加賀谷重浩							
顧 問	板谷 芳京	一ノ木 進	井村 久則	上田 一正	太田 清久	小谷 明	北川 邦行	
酒井 忠雄	佐々木与志実	鈴木 正巳	田口 茂	柘植 新	津田 孝雄	寺田喜久雄	永長 幸雄	
中田 隆二	中村 俊夫	野村 俊明	早川 和一	樋上 照男	平出 正孝	舟橋 重信	三輪 智夫	
山田 真吉	山寺 秀雄	湯地 昭夫						
参 与	宇野 文二	竹内 豊英	田中 智一	遠田 浩司	波多 宣子	服部 敏明	馬場 嘉信	
監 事	江坂 幸宏	倉光 英樹						
庶務幹事	高橋 史樹	飯國 良規						
会計幹事	植松 宏平	村上 博哉						
常任幹事	石田 康行	植松 宏平	太田 一徳 (後任確認中)	小川 数馬	甲斐 穂高	菅野 憲		
北川 慎也	金 継業	栗原 誠	村上 博哉	山本 拓平	湯川 博 (後任確認中)			
幹 事	青木賢一郎 (後任確認中)		伊神 裕善	石松 亮一	伊藤 雅章	大阪 一生	奥山 修司	
香川 信之	勝又 英之	加藤 亮	金子 聡	儀賀 義勝 (後任確認中)	北川 慎也	北出 和久		
木全 良典	坂江 広基	佐澤 和人	柴田 信行 (後任確認中)	鈴木 保任	高山 勝己	高山 信幸		
轟木堅一郎	丹羽 敏之	濱地 清市	古川 真衣	松宮 弘明	三添 英明	宗兼 将之	森 敦	
山腰 亮子	リムリーワ							

【近畿支部】 (〒550-0004 大阪府大阪市西区靱本町 1-8-4 (一財)大阪科学技術センター内)

支 部 長	森内 隆代							
副支部長	久本 秀明							
庶務幹事	岡本 行広							
会計幹事	山口 敬子							
参 与	荒川 隆一	大塚 利行	大塚 浩二	尾崎 幸洋	垣内 隆	加納 健司	木原 壯林	
木村 恵一	木村 優	紀本 岳志	佐伯 正夫	澁谷 康彦	田中 稔	谷口 一雄	千熊 正彦	
寺部 茂	中原 武利	萩中 淳	藤田 芳一	藤原 英明	松下 隆之	村松 康司	八尾 俊男	
横井 邦彦	渡會 仁							
監 事	岩月 聡史	宇田 亮子						
常任幹事	内山 兼一	奥田 浩子	金尾 英佑	北隅 優希	久保 拓也	河野 七瀬	駒谷慎太郎	
夏原 正仁	初 雪	諏訪 雅頼	外間 進悟	坪井 泰之	夏原 正仁	西尾 友志	菱田 尚子	
平原 将也	藤田 昌司							
幹 事	青山 佳弘	浅川 大地	飯田 琢也	石切山一彦	石濱 泰	磯尾賢太郎	大和 誠司	
岩月 聡史	上田 啓太	植田 正人	宇田 亮子	遠藤 達郎	大城 敬人	小山 宗孝	糟野 潤	
門 晋平	川上奈津子	川崎 英也	川田 武史	河野 慎一	川元 達彦	木村 敦臣	久保埜公二	
倉内 奈美	桑本 恵子	小池 亮	小島 順子	小谷 明	小林 宏資	斉藤 秀章	佐々木隆之	
作花 哲夫	下条晃司郎	下山 昌彦	許 岩	白井 理	杉原 崇康	杉山 彩代	杉山 雅人	
鈴江 崇彦	鈴木 哲	鈴木 雅登	瀬戸 康雄	宗林 由樹	宋和 慶盛	高木 一好	高木 達也	
高野祥太郎	高橋 弘樹	武上 茂彦	竹田さほり	田中 悟	谷田 肇	谷水 雅治	茶山 健二	
塚越 一彦	塚原 聡	塚本 効司	辻 幸一	辻 皓平	角井 伸次	天満 敬	鳥羽真由子	
土井 光暢	床波 志保	豊田 岐聡	永井 秀典	中口 讓	中澤 隆	中島 陽一	中田 靖	
中原 佳夫	中村 稜雅	西 直哉	野田 達夫	萩森 政頼	橋田紳乃介	長谷川 健	張野 宏也	
東 昇	藤居 義和	藤嶽 暢英	藤森 啓一	藤原 学	布施 泰朗	細矢 憲	堀田 弘樹	
堀山志朱代	本間 秀和	前田 耕治	牧 輝弥	松本 明弘	松本 健嗣	丸尾 雅啓	三戸 彩絵	

お知らせ

宮崎 哲男 宮道 隆 向井 浩 村松 康司 森澤 勇介 森田 成昭 八木 正浩 矢嶋 撰子
 安井 裕之 安川 智之 山垣 亮 大和 誠司 山根 常幸 山本佐知雄 山本 茂樹 山本 雅博
 横山 悠子 吉田 将己 吉田 裕美 渡邊 誠也

【中国四国支部】 (〒770-8506 徳島県徳島市南常三島町 2-1 徳島大学大学院社会産業理工学研究部)

支 部 長 高柳 俊夫
 次期支部長 竹田 一彦
 副支部長 林 徹太郎
 支部参与 伊藤 一明 今井 嘉彦 岩知道 正 奥村 稔 木卜 光夫 熊丸 尚宏 善木 道雄
 田頭 昭二 竹味 弘勝 中野 惠文 平田 静子 廣川 健 藤原 照文 北條 正司 真鍋 敬
 宮田 晴夫 本仲 純子 本水 昌二 森田 秀芳 山崎 恒博
 支部監事 小園 修治 中山 雅晴
 事務局長 水口 仁志
 庶務幹事 小崎 大輔 竹内 政樹
 会計幹事 浅岡 聡
 常任幹事 朝日 剛 安達 健太 安東 博幸 石坂 昌司 今井 昭二 上田 忠治 上田 真史
 金田 隆 紙谷 浩之 北出 哲朗 北山 宏三 座古 保 高田 智明 田中 秀治 津村 徹
 西 博行 原 哲也 平岡 章二 藤井 健太 藤田 勉 森 勝伸 盛田啓一郎 森本 稔
 藪谷 智規 横山 崇 吉村 友宏
 支部幹事 浅野 比 井上 裕文 片岡 洋行 苅部 甚一 川村 邦男 小松原恒生 島崎 洋次
 管原 庄吾 竹永 史典 武安 伸幸 寺川 敦哉 永阪 文惣 西本 潤 西脇 芳典 樋口 浩一
 藤原 勇 渊脇 雄介 松原 弘樹 宮本 和英 門木 秀幸 山下 浩 山本 敦史 山本 剛
 山本 孝 吉岡 徹 和田 光弘

【九州支部】 (〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡 744 九州大学大学院農学研究院)

支 部 長 井倉 則之
 次期支部長 吉田 秀幸
 副支部長 廣沢 一郎 児玉谷 仁
 支部参与 石黒 慎一 今坂藤太郎 今任 稔彦 岩崎 正武 鎌田 薩男 河済 博文 喜納 兼勇
 黒木 広明 合屋周次郎 財津 潔 下田 満哉 城 昭典 高舘 明 谷口 功 田端 正明
 出口 俊雄 中島憲一郎 中村 博 肥後 盛秀 増田 義人 松本 清 山口 敏男 山口 政俊
 山田 淳 横山 拓史 吉村 和久 脇田 久伸
 監 事 加地 範匡 宮崎真佐也
 庶務幹事 椿 俊太郎
 会計幹事 矢代 民美子
 常任幹事 大島 達也 佐藤しのぶ 佐藤 博 田中 充 戸田 敬 浜瀬 健司 野間 誠司
 松尾 隆司 松森 信明 原田 明 藤ヶ谷剛彦 満塩 勝 吉田 秀幸
 幹 事 浅田 泰 新垣 雄光 石井 千晴 石岡 寿雄 石川 洋哉 伊藤 圭亮 稲田 幹
 伊藤 圭亮 井上 高教 井原 敏博 上原 雅人 宇都宮 聡 梅木 辰也 江藤真由美 王子田彰夫
 大渡 啓介 大庭 義史 大平 慎一 恩田 健 片山 佳樹 勝田 陽介 加藤 祐子 梶島 力
 梶島 正美 上畑桂太郎 川井 隆之 川上 健次 川畑 明 神崎 亮 岸川 直哉 北島 利雄
 北村 裕介 木下 将和 栗崎 敏 栗原 龍 黒田 直敬 呉 行正 財津 慎一 笹木 圭子
 佐藤 正雄 佐藤 好美 佐野 洋一 澤津橋徹哉 塩路 幸生 清水 陽一 白土 英樹 末田 慎二
 鈴木 絢子 宗 伸明 高橋 浩司 高橋 幸奈 高橋 政孝 竹中 繁織 手嶋 康介 天日 美薫
 富永 昌人 富安 卓滋 鳥羽 陽 中島 常憲 中園 学 中武 貞文 中野 幸二 中村 沙織
 中山 研一 新留 康郎 西田 正志 能田 均 能登 征美 馬場 由成 巴山 忠 原口 浩一
 原田 雅章 藤井 清永 前田 明広 増田 寿伸 真瀬田幹生 又吉 直子 松井 利郎 松本 篤彦
 松本 篤彦 馬渡 和真 水城 圭司 満尾 良弘 三宅 孝彰 村田 正治 森 健 安田みどり
 山下 将一 横山さゆり 吉田 亨次 吉田 祐一 吉留 俊史

第410回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー(LC)研究懇談会

後援 (公社)日本化学会, (公社)日本農芸化学会, (公社)日本分析化学会(薬学会は許諾後)

HPLCを用いた分析において、分析結果に大きな影響を与える検出には、高感度、高精度や選択性などが求められます。本例会では、高感度化、選択的な検出を実現する装置・手法、あるいは特徴的な装置の紹介など、検出に関するあれこれについてご講演いただきます。

期日 2025年9月19日(金) 13.00~16.50

会場 (株)日立ハイテクアナリシス サイエンスソリューションラボ東京〔東京都中央区新富2-15-5 RBM 築地ビル, 交通: 東京メトロ有楽町線「新富町」駅より徒歩1分(5番出口利用), 東京メトロ日比谷線「築地」駅より徒歩4分(4番出口利用), JR京葉線, 東京メトロ日比谷線「八丁堀」駅より徒歩8分(A3出口利用)〕

<https://www.google.com/maps/search/?api=1&query=35.671216%2C139.775>

講演主題 HPLC, LC/MSにおける検出についてのあれこれ講演

講演主題概説(オーガナイザー)(13.00~13.05)
(日本分光(株) 佐藤泰世
(LC分析士二段)

1. (13.05~13.35)
高感度HPLCおよびLC/MSのための分析用水の最適化
(メルク(株) 石井直恵
(LC分析士二段)

2. (13.35~14.05)
高感度化を達成するための高選択的前処理と分析例
(ジエールサイエンス(株) 太田茂徳
(LC分析士二段)

3. (14.05~14.35)
ポストカラム誘導体化法による分析手法の紹介
(株)日立ハイテクアナリシス 清水克敏
(LC分析士二段, LCMS分析士初段)

4. (15.35~15.05)
キラル分析用検出器の紹介と応用例
(日本分光(株) 佐藤泰世
(LC分析士二段)

休憩(15.05~15.20)

5. (15.20~15.50)
2次元LC(2D-LC)による高感度化、選択的な検出
(株)島津製作所 寺田英敏
(LC分析士三段, LCMS分析士初段)

6. (15.50~16.20)
LC/MS高感度化のための技術・手法・注意点
(浜松医科大学/エムエス・ソリューションズ(株)/
(株)プレッパーズ) 高橋 豊
(LC分析士二段, LC/MS分析士五段)

7. (16.20~16.50)
総括「HPLC, LC/MSにおける検出についてのあれこれ」
(東京理科大学) 中村 洋
(LCマイスター, LC/MSマイスター)

参加費 ①学生:1,000円, ②LC懇・個人会員:2,000円, ③LC懇・団体会員:3,000円, ④後援学会・個人会員:4,000円, ⑤後援学会・団体会員:4,500円, ⑥その他:5,000円。参加申込締切後の受付はできませんので、ご了承ください。

情報交換会 終了後、講師を囲んで情報交換会を開催します(会費5,000円)。参加申込締切後のご参加はできませんので、参加希望者は必ず事前にお申し込みください。

参加申込および参加費等納入締切日 2025年9月10日(水)
(入金締切時刻:15時まで)

申込方法

- 参加希望者は、下記申込先にアクセスし、氏名、勤務先(電話番号)、LC研究懇談会・個人会員、協賛学会・個人会員、その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ、お申込みください。なお、参加者名と振込者名が違う場合は、参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください。
- お申込みが完了した場合には、登録されたアドレス欄に「第410回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付(自動返信)」のメールが届きます。メールが届かない場合は、①入力したご自分のアドレスに間違いがないか、②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ、世話人までお問い合わせください。
- 申込み受付のメールを受領後、必ず期限内に研究懇談会参加費、情報交換会費の納入を行ってください。期限内に納入が確認できない場合、お申込みを無効とし参加URLを発行しませんので、十分ご注意ください。当日払いは受け付けません。なお、いったん納入された参加費は、返金いたしません。
- 参加費の納入が確認できた方には、2025年9月12日以降に要旨集をメールにてお送りいたします。必要に応じてプリントアウトしてご参加ください。また、請求書の発行はいたしておりません。

液体クロマトグラフィー研究懇談会(例会)参加費送金時のご注意

例会参加費、情報交換会費を送金される場合、下記を禁止しておりますので、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

- 複数例会の参加費の同時振込
(→例会ごとに振り込んでください)
- 複数参加者の参加費の同時振込
(→参加者ごとに振り込んでください)
- 年会費や他の費用との合算振込
(→費目ごとに振り込んでください)

申込先 <https://forms.gle/Ty1vgGwbKbGgELgz8>
(学生申込者は、所属欄に大学名、学部、学年を記載)

銀行送金先 りそな銀行五反田支店(普通)1754341, 口座名義:シヤ)ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕

問合先 (公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会 世話人 日本分光(株) 佐藤泰世
(E-mail: yasuyo.sato@jasco.co.jp)

第24回生涯分析談話会

主催 生涯分析談話会
協賛 LC研究懇談会

日本分析化学会第74年会・渡慶次 学実行委員長ならびに田中俊逸現地世話人(元北大院地球環境)のご配慮により、標記談話会恒例の講演会を年会の前日に以下の要領で開催できることとなりました。

日時 2025年9月23日(火) 16時~18時

場所 北海道大学工学部〔札幌市北区北13条西8丁目〕(教室名は年会のプログラム編成後に判明します)

第1部 講演会

講演1 「生活の科学のための分析化学」
(元北海道教育大学, 東京学芸大学元特任教授・現研究員, 日本女子大学客員研究員)

森田みゆき

講演2 「大学から高専そしてビジネス界への履歴」

お知らせ

(元北大院工, 元旭川高専校長, 元日本ケミコン
株式会社取締役, 旭川市立大学経営審議会委員)

高橋英明

第2部 情報交換会 18.30からレサン(イタリアン)

[札幌市北区北10条西4丁目1-14]

参加費 第1部:無料, 第2部:5,000円

詳細が分かり次第, LC研究懇談会ホームページ(<https://www.lckon.org/>)に随時掲載しますので, 下記宛に奮ってお申し込みください。

生涯分析談話会・会長 中村 洋

参加申込先 幹事:伊藤一明[E-mail:itok1481@gmail.com]

2025年度関東支部 「新世紀賞」・「新世紀新人賞」 候補者募集

関東支部では2000年より新世紀賞および新世紀新人賞を設け、表彰を行っています。適当な候補者がおられましたら、ご推薦の程お願いいたします。

2023年1月13日から新しい支部表彰規定が施行されました。詳しくは関東支部HP(<https://kanto.jsac.jp>)をご覧ください。

新世紀賞資格

- ① 2025年4月1日現在で満39歳以上54歳以下の者で関東支部所属の正会員。ただし、上限年齢を超えても受け付ける場合*がある。
- ② 研究業績は、本会論文誌またはその他の論文誌に公表されたものでなければならない。
- ③ 受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は、主たる研究者について適用する。
- ④ 候補者となるべきものは会員の推薦によるものとする(自薦を含む)。
*上限年齢は、研究職からの異動、産休・育休、また長期療養などのライフステージを考慮する。

新世紀新人賞資格

- ① 2025年4月1日現在で満38歳以下の関東支部所属の正会員。
- ② 研究業績は、本会論文誌またはその他の論文誌に公表されたものでなければならない。
- ③ 受賞の基礎となる研究業績が共同研究の場合は、主たる研究者について適用する。
- ④ 候補者となるべきものは会員の推薦によるものとする(自薦を含む)。
- ⑤ ただし、日本分析化学会奨励賞受賞者は除く。

提出書類

新世紀賞

- ① 推薦書(関東支部HP(<https://kanto.jsac.jp/award/>)よりダウンロード)
- ② 推薦理由書(A4判を縦(1行45字×40行)に使用し、本文および文献リスト(主要論文等)を合わせて3ページ以内で作成すること)。
- ③ 添付資料(特に重要な論文の別刷、その他審査の参考となる資料)

新世紀新人賞

- ① 推薦書(関東支部HP(同上)よりダウンロード)
- ② 推薦理由書(A4判を縦(1行45字×40行)に使用し、本文および文献リスト(主要論文等)を合わせて3ページ以内で作成すること)
- ③ 添付資料(特に重要な論文・特許等の写し、3編以内)

提出方法 上記書類を電子ファイルとし、推薦者より書類提出先記載のE-mailアドレス宛送信(cc:候補者)のこと(ただし自薦の場合は候補者より送信、いずれも押印不要)。①、

②についてはそれぞれ1件のファイルとすること。③については複数のファイル送付も可とするが、必要最小限とすること(いずれもPDFファイルを推奨)。なお、事務局にてメールおよびファイルを受信後、受領通知が送信されるので、確認のうえ、受領通知のメールは保管のこと。送信後1週間以内に受理通知が届かない場合は書類提出先アドレスに必ず問い合わせのこと。

締切日 2025年10月31日(金) 必着

書類提出先 日本分析化学会関東支部事務局

[E-mail:kanto@jsac.or.jp]

第38回新潟地区部会研究発表会

—講演募集—

主催 (公社)日本分析化学会関東支部・同新潟地区部会

期日 2025年10月31日(金) 13時から

会場 新潟大学五十嵐キャンパス 物質生産棟161演習室、1F展示スペース

[新潟市西区五十嵐二の町8050, 電話:025-262-7323]

プログラム

1. 特別講演
2. 一般講演
3. ポスター発表

一般講演・ポスター発表申込方法 電子メールに一般講演・ポスター発表の別、講演題目、発表者名(講演者に○印)、所属、連絡先を記入のうえ、下記の締切日までに申し込みください。講演要旨集作成要領をお送りします。

一般講演の申込締切日 2025年8月15日(金)

ポスター発表の申込締切日 2025年9月19日(金)

*ポスター発表の申込期間は延長される可能性もありますので、ご連絡ください。

参加費 無料

申込・照会先 〒950-2181 新潟市西区五十嵐二の町8050

新潟大学理学部 韓 智海 [電話:025-262-7323,

E-mail:jhhan@chem.sc.niigata-u.ac.jp]

ナノ材料の総合分析講習

主催 (一社)近畿化学協会触媒・表面部会

協賛 (公社)日本分析化学会近畿支部ほか

期日 2025年11月6日(木)・7日(金)

会場 大阪工業大学大宮校区

プログラム

第1日(6日9.30~18.15)

- 開会挨拶 (大工大) 東本慎也
1. 表面分析概論 (大工大) 東本慎也
 2. 組成分析(AAS, ICP-AES, XRF) (関大環境都市工) 福康二郎
 3. 光電子分光法(XPS, UPS) (京大院工) 富田 修
 4. X線回折(XRD) (京大院工) 中田明伸
 5. 電子スピン共鳴(ESR) (阪公大院工) 松岡雅也
 6. 顕微鏡(TEM・SEM・STM・AFM) (近大理工) 田中淳皓
 7. 昇温法(TG・DTA・TPD, TPR) (阪大院工) 森 浩亮

交流会

第2日(7日9.30~17.40)

8. X線吸収微細構造(XAFS) (近大理工) 朝倉博行
9. 紫外可視・光ルミネセンス(UV-vis, PL)

- (京大院工) 浪花晋平
10. 核磁気共鳴 (NMR) (神戸大院工) 山口 渉
11. 赤外・ラマンスペクトル (FT-IR, Raman)
(阪公大院工) 竹内雅人
12. 質量分析・クロマトグラフ (MS・GC・LC)
(京大院工) 井口翔之
13. 吸着法 (近大理工) 室山広樹
14. 電気化学測定 (京大) 東 正信
15. 総論・ケーススタディー (京大院人環) 吉田寿雄
閉会挨拶 (大工大工) 東本慎也

参加費・申込方法

詳細は <https://kinka.or.jp/catalytic/> をご参照ください。

申込締切 10月15日(水)

申込・問合せ先 〒550-0004 大阪市西区鞠本町1-8-4

近畿化学協会触媒・表面部会〔電話：06-6441-5531,
FAX：06-6443-6685, E-mail：catal@kinka.or.jp〕

—以下の各件は本会が共催・協賛・
後援等をする行事です—

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください。

特定放射光施設シンポジウム 2025

特定放射光施設の協奏的發展

主催 特定放射光施設ユーザー協団体 (SpRUC), 理研, 量子科学技術研究開発機構, 高輝度光科学研究センター, 東北大学

期日 2025年9月4日(木)・5日(金)

会場 東北大学青葉山コモンズ

ホームページ

<http://www.spring8.or.jp/ext/ja/spruc/sprucsymposium2025.html>

連絡先 〒679-5198 兵庫県佐用郡佐用町光都1-1-1

特定放射光施設ユーザー協団体事務局 古川美奈

〔電話：0791-58-0970, E-mail：users@spring8.or.jp〕

第28回 XAFS 討論会

主催 日本 XAFS 研究会

期日 2025年9月14日(日)~16日(火)

会場 KEK つくばキャンパス小林ホール

ホームページ <https://www.jxafs.org/conference/jxafs28/>

連絡先 〒305-0801 茨城県つくば市大穂1-1

KEK 物構研 第28回 XAFS 討論会実行委員会

〔E-mail：jxafs28_committee@ml.post.kek.jp〕

2025年度日本地球化学会第72回年会

主催 (一社)日本地球化学会

期日 2025年9月17日(水)~19日(金)

会場 東北大学・川内北キャンパス (B棟)

ホームページ

<https://www.geochem.jp/annual-meetings/latest-annual-meeting>

連絡先 〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 (株)国際文

献社内 日本地球化学会事務局

(一社)日本地球化学会 庶務幹事 山口瑛子

〔電話：080-3475-2363, E-mail：affairs@geochem.jp〕

第36回日本微量元素学会学術集会

主催 日本微量元素学会

期日 2025年9月20日(土)・21日(日)

会場 京都薬科大学躬行館

ホームページ

https://labo.kyoto-phu.ac.jp/taisya/HP_BRTE2025/BRTE2025.html

連絡先 〒607-8414 京都市山科区御陵中内町5

京都薬科大学 代謝分析学分野 安井裕之

〔電話：075-595-4630, E-mail：brte2025@mb.kyoto-phu.ac.jp〕

25-3 ポリマーフロンティア 21 【ソフト薄膜・表面の精密構造解析】

主催 (公社)高分子学会 行事委員会
 期日 2025年9月26日(金)
 会場 オンライン開催
 ホームページ
<https://main.spsj.or.jp/c10/pfpro.php>
 連絡先 〒116-0011 東京都荒川区西尾久7-12-16
 (株)ソウブン・ドットコム コンベンション部 田中しずか
 [電話: 03-3893-0111, E-mail: soubun@spsj.or.jp]

2025年日本表面真空学会学術講演会 (JVSS2025)

主催 日本表面真空学会
 期日 2025年10月20日(月)~22日(水)
 会場 つくば国際会議場
 ホームページ
<https://pub.conf.it.atlas.jp/en/event/jvss2025>
 連絡先 〒113-0033 東京都文京区本郷5-25-16
 石川ビル5階 日本表面真空学会 JVSS2025 事務局
 [電話: 03-3812-0266, E-mail: taikai2025@jvss.jp]

第71回ポーラログラフイーおよび 電気分析化学討論会

主催 日本ポーラログラフ学会
 期日 2025年10月22日(水)・23日(木)
 会場 ANA ホリデイ・インリゾート宮崎
 ホームページ
<https://polaro-jp.secure-web.jp/>
 連絡先 〒889-2192 宮崎県宮崎市学園木花台西1-1
 宮崎大学工学部工学科 電気電子システムプログラム
 東 智弘(討論会理事)
 [電話: 0985-58-7353, E-mail: t_higashi@cc.miyazaki-u.ac.jp]

連合年会 2025 (第38回日本イオン交換研究発表会・ 第44回溶媒抽出討論会)

主催 日本イオン交換学会, 日本溶媒抽出学会
 期日 2025年10月29日(水)・30日(木)
 会場 秋田拠点センターアルヴェ
 ホームページ
<https://www.alve.jp>
 連絡先 〒010-8502 秋田県秋田市手形学園町1-1
 秋田大学大学院理工学研究科 共同サステナブル工学専攻
 高橋 博
 [電話: 018-889-2743, E-mail: jr7mlf@ac5.as.akita-u.ac.jp]

有機フッ素化合物等の化学物質を 巡る課題と技術革新の現在地 —環境と産業の共生を支える測定・ 処理・管理技術の最前線—

主催 (国研)産業技術総合研究所
 期日 2025年10月31日(金)
 会場 産業技術総合研究所臨海副都心センター
 (東京都江東区)およびYouTube 配信(ハイブリット開催)
 ホームページ
<https://unit.aist.go.jp/env-mri/event/index.html>
 連絡先 産業技術総合研究所 環境創生研究部門 研究発表会
 事務局 [E-mail: M-EMRIsympo-ml@aist.go.jp]

第38回日本吸着学会研究発表会

主催 日本吸着学会
 期日 2025年11月12日(水)・13日(木)
 会場 J:COM ホルトホール大分
 ホームページ
<https://www.j-ad.org/annual-meeting38/>
 連絡先 〒870-1192 大分県大分市大字且野原700
 大分大学理工学部理工学科 生命・物質化学プログラム
 近藤 篤
 [電話: 097-554-7896, E-mail: adsorption2025@oita-u.ac.jp]

第23回ホスト-ゲスト・ 超分子化学シンポジウム (SHGSC 2026) 「分子化学と生物機能分子をつなぐ超分子化学 —分子認識から生命機能発現・応用まで—

主催 ホスト-ゲスト・超分子化学研究会
 期日 2026年6月6日(土)・7日(日)
 会場 大阪大学豊中キャンパス
 ホームページ
<https://www.ahgsc.jp/>
 連絡先 〒560-0043 大阪府豊中市待兼山町1-1
 大阪大学大学院理学研究科 高分子科学専攻
 山岡賢司 [電話: 06-6850-8260, E-mail: yamaokak3@chem.
 sci.osaka-u.ac.jp]

日本分析化学会第74年会 —参加申込方法—

標記年会を下記のように開催します。本年会に参加される方は、全員参加登録をしていただきます。年会当日に参加登録証をご提示ください。参加登録は、オンライン参加登録システム（以下、参加登録システムと略）で行ってください。参加登録の詳細は第74年会 Web サイト（以下、年会 Web と略）をご参照ください。講演要旨集は電子配布します。講演プログラム集は、年会当日に会場にてお渡しいたします。

【日本分析化学会第74年会実行委員会 Web サイト】

<https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/jsac74nenkai>

主催 (公社)日本分析化学会

会期 2025年9月24日(水)~26日(金)

主会場 北海道大学工学部〔札幌市北区北13条西8丁目、交通：JR札幌駅より地下鉄南北線麻生方面行で「北12条」駅下車、北大13条門を経て徒歩約12分。または、JR札幌駅北口から徒歩で北大正門を経て約20分〕

<https://www.eng.hokudai.ac.jp/access/>

懇親会 9月25日(木)18時~20時

懇親会会場 札幌グランドホテル〔札幌市中央区北1条西4丁目〕

<https://grand1934.com/>

【Web版講演要旨集の閲覧方法】

- ・本年会へ参加登録をされた皆様は、9月1日(予定)以降、参加登録番号と参加申込に使用されたメールアドレスで閲覧・ダウンロードできます。
- ・10月27日(月)まで閲覧・ダウンロードが可能です。
- ・スマートフォン等の機種では正しく表示されない場合があります。ご了承ください。

【参加申込について】

- ・事前参加登録の締め切りは8月6日(水)です。8月7日以降は「通常参加登録」となります。

【参加登録料・懇親会参加費】

- ・事前参加登録料のお支払い期日は**8月6日(水)**で、お支払い方法は「クレジットカード」または「銀行振込(手数料は振込者負担)」です。
- ・8月7日(木)以降は通常参加登録となります。「通常参加登録」のお支払いは、原則**クレジットカード払いのみ**となります。
- ・参加登録料および懇親会費は下記のとおりです。
事前参加登録料：会員12,000円、学生会員4,000円、会員外21,000円、会員外学生7,000円
通常参加登録料：会員15,000円、学生会員6,000円、会員外24,000円、会員外学生8,000円
予約懇親会費(～8月6日申込)：一般14,000円、学生5,000円
当日懇親会費(空席がある場合のみ受け付けます)：一般16,000円、学生7,000円

(ご注意)

- ・会員には団体会員(維持会員)に所属する方を含みますが、特別会員および公益会員の場合は、1名に限り会員扱いとなります。
- ・会員の方の参加登録料は不課税扱いです。会員外、会員外学生は税込金額です。
- ・懇親会参加費はすべて税込金額です。

【年会参加登録費用の領収書発行】

- ・参加登録システムからダウンロードできます。領収書は参加登録サイトにログイン後、「領収書ダウンロード」より発行することができます。

【シンポジウム】

下記5つのテーマのシンポジウムを開催する予定です。

(テーマ：オーガナイザー)

1. 環境工学で注目を浴びる分析化学：
佐藤 久(北海道大学)
2. 先端分光・電気化学・バイオセンシングの新展開：ナノ・分子レベルの計測と制御：
上野貢生(北海道大学)
3. エクソソームと分析化学：
真栄城正寿(北海道大学)
4. 生体界面とバイオセンシング：
安井隆雄(東京科学大)、渡慶次学(北海道大学)
5. 分析化学における信頼性確保のための取り組み(公開シンポジウム)：
明本靖広、若杉郷臣、富田恵一(北海道立総合研究機構)
上本道久(明星大学)

※詳細は年会 Web をご参照ください。

【産業界シンポジウム】

開催予定です。詳細が決定次第年会 Web に公開します。

【ものづくり技術交流会】

これまで分析化学とは縁のなかったような分野の企業との新たなつながりをつくる機会として、ものづくりの企業による展示を事例レクチャーとともに企画しております。奮ってご参加ください。

※詳細は年会 Web をご参照ください。

【生涯分析談話会】

下記2つの講演の開催を予定しております。

講演1「生活の科学のための分析化学」

森田みゆき(元北海道教育大学、東京学芸大学元特任教授・現研究員、日本女子大学客員研究員)

講演2「大学から高専そしてビジネス界への遍歴」

高橋英明(元北大院工、元旭川高専校長、元日本ケミコン(株)社外取締役、旭川市立大学経営審議会委員)

また、情報交換会の開催も予定しております。

※詳細は年会 Web をご参照ください。

【みんなのキャリアデザイン交流会】

研究とライフの両立やキャリアについて、研究分野や組織、

世代を超えて交流したいと考えています。本年会参加者の皆様は、どなたでもご参加いただけます。奮ってご参加ください。※詳細は年会 Web をご確認ください。

【各種お問合せ先】

[分析化学会第 74 年会に関するお問合せ]

- ・お問合せ全般：
 - 日本分析化学会第 74 年会実行委員会事務局
 - 74nenkai@jsac.jp
- ・高校生ポスターに関するお問合せ：
 - 山田幸司 (高校生ポスター担当)
 - E-mail: yamada@ees.hokudai.ac.jp
- ・託児所に関するお問合せ：
 - 佐藤 久 (会場担当)
 - E-mail: rki52744@elms.hokudai.ac.jp
 - (メール件名を「託児所希望」としてください)

[ASIANALYSIS XVII 2025 に関するお問合せ]

- ・Organizing Committee of ASIANALYSIS XVII 2025
- E-mail: asiananalysis@jsac.or.jp

「分析化学誌」特集“持続可能な社会に貢献する ガスクロマトグラフィーと GC 誕生 70 年のあゆみ”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、ガスクロマトグラフィー研究懇談会 (GC 懇) と共同で「持続可能な社会に貢献するガスクロマトグラフィーと GC 誕生 70 年のあゆみ」と題した特集を企画しました。ガスクロマトグラフィー (GC) は誕生から約 70 年が経ち、現在は環境、食品、生体など幅広い分野に応用されています。検出器の開発や改良によって、高感度分析や選択的分析などさまざまな発展を見せています。本特集号では、GC に関する試料前処理、分離・分析技術、検出技術、データ解析など幅広い論文の投稿を募集しております。詳細はホームページをご確認ください。

特集論文申込締切：2025 年 8 月 29 日 (金)

特集論文原稿締切：2025 年 10 月 17 日 (金)

「分析化学」年間特集“波”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では 2010 年より年間特集を企画し、企画テーマに関連する論文を年間を通じて掲載しています。2026 年のテーマを「波」と決定しました。

「波」は光の波長と波数を想起させることから、分光分析の基礎および応用についての論文を募集します。例えば以下のような研究について募集を行います。

- 1) 将来的に分析化学に応用される可能性をもった分光測定法の開発
- 2) 分光分析による構造解析、定量、微量検出、化学種同定。
- 3) 表面分光・顕微分光による局所測定とイメージング
- 4) 分光法と類似の情報が得られる中性子や超音波を用いた測定
- 5) 多変量解析や理論計算による分光測定結果からの情報の抽出

一方で、「波」は直接、海や川の表面に起こる波を連想させます。本特集においては、海洋や河川の表層または岸辺を対象とした環境分析についても論文を募集します。

本特集に関する論文は年間を通じてご投稿いただくことが可

能で、審査を通過した論文は、単行の特集号を除く「分析化学」第 75 巻 (2026 年) 合併号の冒頭に掲載する予定です。多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので、是非この機会をご活用ください。

特集論文申込締切：2025 年 7 月 18 日 (金) (第 1 期)

特集論文原稿締切：2025 年 8 月 22 日 (金) (第 1 期)

「分析化学討論会」特集の論文募集 (案)

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では、毎年第 12 号に分析化学討論会特集号として、分析化学討論会の討論主題に関連した論文を掲載しております。第 85 回分析化学討論会では、「化学物質の環境リスクと分析化学」、「生物機能を調査 & 利用する分析化学」、「科学捜査で役立つ分析化学」、「医薬品・バイオマーカーを定量し、疾患を可視化する分析化学」、「生体試料を対象とする分離分析でのデータサイエンスの活用」、「発酵と酒と泡と分析化学」の 6 テーマを討論主題として取り上げました。

そこで、2025 年度の分析化学討論会特集号では、「多種多様な分析対象に適応する分析化学技術の新潮流」をテーマにしました。本テーマにおいて、第 85 回分析化学討論会で設けた 6 つの討論主題に関する論文を広く募集します。多数のご投稿をお待ちしております。詳細は「分析化学」74 巻 6 号及びホームページをご覧ください。

特集論文の申込締切：2025 年 7 月 11 日 (金)

特集論文の原稿締切：2025 年 8 月 8 日 (金)

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第 24 回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は、2025 年 (第 74 巻) に企画しております第 24 回「若手研究者の初論文特集」の特集名称を変更し、第 24 回「初執筆論文特集」として原稿を募集いたします。卒研究生、修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって、ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です。年間を通して論文原稿を受け付け、審査を経て掲載可能な次第随時掲載いたしますので、奮ってご投稿ください。

なお、詳細は「分析化学」誌 HP をご参照ください。

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり、科学や産業の発達・発展だけでなく、安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました。近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく、知識や経験がなくても、微量物質の量や特性を測定できるようになりました。この急速な発展は、各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません。一方、高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには、既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり、高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています。また、分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて、測定環境の整備、試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です。極微量の試料を分析する際には、測定原理を把握すると共に、手法や操作に関する知識・技能を身に付ける必要がある

と考えます。

このような背景に鑑み、『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました。分析機器の特徴や性能、機器開発に関わる技術、そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用、さらなる普及に繋がると考えており、これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました。また、分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項、前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします。これらの記事を技術紹介集として、『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで、様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき、分析化学の発展に貢献できるものと期待しております。分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております。

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器、分析手法に関する紹介・解説記事
 - 1) 分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術、
 - 2) 分析手法の特徴および手法開発に関わる技術、
 - 3) 分析機器および分析手法の応用例、
 - 4) 分析に必要なとなる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説、
 - 5) 前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項、
 - 6) その他、分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては、新規性は一切問いません。新規の装置や技術である必要はなく、既存の装置や技術に関わるもので構いません。また、社会的要求が高いテーマや関連技術については、データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません。
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会
[E-mail : bunseki@jsac.or.jp]

9. 本会が討論会、講演会等を共催する場合は、その討論会、講演会等の主要議題が本会の専門分野と関連を持ち、本会正会員が会議の準備、運営等の委員に若干名加わることを条件とする。
10. 本会が共催する討論会、講演会等に対しては、他学協会長等の申し出によって会誌等による広報活動の援助を行う。特に理事会の承認を得て分担金を支出することがある。(後援又は協賛)
11. 討論会、講演会等の後援又は協賛とは、本会がその討論会、講演会等の開催に賛同し、後援又は協賛団体の一つとして、本会名義の使用を認める場合をいう。
12. 本会が討論会、講演会等を後援又は協賛する場合は、その討論会又は講演会が分析化学に関連を持ち、その開催が本会会員にとっても有意義であることを条件とする。
13. 本会が後援又は協賛する討論会、講演会等に対しては、希望に応じ会誌等による広報活動の援助を行うことがある。

「分析化学」の掲載料についてのお知らせ

「分析化学」誌では、2020年4月より論文掲載料を以下の計算式にしたがってお支払いいただき、pdfファイルを進呈することになりました。なお、論文の別刷を希望される場合は、別途別刷頒布料金をお支払いいただくことにより購入することができます。

掲載料金計算式 (P: 印刷ページ数) (単位: 円)

会員の場合: $30,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律80,000円)

会員外の場合: $40,000 + 5,000 \times (P - 4)$ (印刷ページ数が14ページ以上は一律90,000円)

* 上記に消費税がかかります。

「お知らせ」欄原稿について

支部並びに研究懇談会の役員の皆様：掲載用の原稿ファイルをどうぞ電子メールでお送りください。送り先は shomu@jsac.or.jp です。原稿の長さには制限はありませんが原稿締切日は掲載月の前々月25日(例:1月号掲載→11月25日締切)となっておりますのでご注意ください。

本会外から掲載をご希望の場合は以下をご参照ください。

- 1) 掲載できるものは本会が共催、協賛、後援するものに限られます。
- 2) 国際会議につきましては共催、協賛、後援申請に関する規程並びにフォームがありますので、ホームページをご覧ください。か、本会事務局宛にお問い合わせください。
- 3) 国際会議以外の講演会等に関しましては、会名、会場、主催団体名、同代表者名、開始期日、終了期日、連絡先並びに同電子メールを記載のうえ、書面でお申し出ください。
- 4) 掲載原稿の作成要領に関しましては承諾をご返事する際にお知らせします。
- 5) 本会支部または研究懇談会が共催、協賛、後援を承諾した事業につきましては、その旨をメールにお書きいただき、原稿ファイルを shomu@jsac.or.jp にお送りください。

国際会議以外の共催、協賛、後援に関する規程抜粋 (共催)

8. 討論会、講演会等の共催とは、その討論会、講演会等の開催について、本会は主体性を持たず、会誌等を通じて広報活動等の援助を行う場合をいう。